

# 令和4年第4回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和4年4月22日(金)

2 招集場所 大河原町役場 第一会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

佐藤勝弘教育総務課長、木村武俊生涯学習課長、山家一博学校教育専門監

5 開 会 午後2時

6 令和4年第3回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

一盃森委員、小山委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告について

報告第4号 令和4年度町立小中学校児童生徒数について

教育総務課長より説明 異議なし

報告第5号 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

教育総務課長より説明 異議なし

(2) 専決事務報告 なし

8 議 事

議案第15号 大河原町立学校評議員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第16号 大河原町立大河原小学校学校運営協議会委員の委嘱について

丹羽委員 | 齋久美子さんについて、最後はどちらの中学校長でしたか。

佐藤教育総務課長 | 村田第二中学校です。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第17号 大河原町立金ヶ瀬小学校学校運営協議会委員の委嘱について

舟山委員 | 大河原小学校には校長先生がいないが、金ヶ瀬小学校には校長先生が入っている。各学校によつてのこの違いは何か。

佐藤教育総務課長 | 学校運営の中で関係者をまとめ、学校長がすべて入るという訳ではない。学校は事務局なので、参加はするが、委員としては学校で選定する。

鈴木教育長 | 学校判断で任せているが、当然、学校長は会の中には参加する。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

**議案第 18 号 大河原町立大河原南小学校学校運営協議会委員の委嘱について**

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

**議案第 19 号 大河原町立大河原中学校学校運営協議会委員の委嘱について**

丹羽委員 | 小学校と中学校の委員で、名前が重なっている委員がいるが、問題ないか。

鈴木教育長 | 今回の学校運営協議会制度については、以前からの学校評議員制度も組み入れている。特に支障はない。

一盃森委員 | 齋藤敦さんは、現在の父母教師会の会長ですか。

佐藤教育総務課長 | 現在の会長です。今年度の総会で変更になるかもしれない。

一盃森委員 | 実は、コロナ禍で、学校と地域の結びつきが弱くなっている。学校運営協議会に期待するところは大きいと思う。

鈴木教育長 | 学校教育活動も地域との連携が大事。先生方に考えてほしい。学校の中だけで完結していたとしたら、残念である。今後に期待する。

鈴木教育長 | ありがとうございます。まさしく、この制度の趣旨である、人と人を繋ぐ組織です。大事だと思います。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

**議案第 20 号 大河原町立金ヶ瀬中学校学校運営協議会委員の委嘱について**

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

**議案第 21 号 大河原町地区スポーツ推進協力員の委嘱について**

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

**議案第 22 号 大河原町駅前図書館司書の任命について**

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

## 9 その他

### (1) 教育長報告①(校長会資料による報告)

#### 1 新体制でのスタートを祝う

金ヶ瀬中学校に新しく遠藤和弘校長を迎える。

#### 2 全国学力・学習状況調査

4月19日に実施する全国学力・学習状況調査についての、各校長としての説明事項をお願いした。

### 3 学力向上の取り組み

大河原町での取り組みを説明。

### 4 不登校児童生徒に関する取組

大河原町では不登校が増加傾向にある。そのような中、昨年は大河原小学校に「学び支援教室」を設置。今年度は、大河原中学校に「学び支援教室」を設置し支援していきたく考えている。

### 5 体力向上の取組

仙台大学と大河原小学校が連携して、外遊びを中心に実施してきた。かなりの成果が見られた。今年度は、横展開し大河原南小学校と金ヶ瀬小学校でも展開して取り組んでいきたい。

### 6 豊かな心の育成に関する取組

今年度も引き続き「全学級道徳授業の日」を設定し取り組んでいきたい。

### 7 『小学校の英単語』について

タブレットを使用し、ALTの協力を得て、英単語の発音が聞けるようにした。アイデアがすばらしい。タブレットと紙での組み合わせでさらに充実していくと思われる。

## (1) 教育長報告②(校長会資料による報告)

### 1 子どもはみんな「楽しむ心」を持っている(池谷裕二)

子どもは大人の話しより、子どもの言うことをよく聞く。授業は子ども同士の対話的な学びの有効性が裏付けられる話である。

### 2 『挑戦』(山中伸哉・藤井聡太)

ips細胞を作るための、細胞を初期化する遺伝子を特定する方法についての話しである。少数派の意見が成功する時もあるので、「若いうちは、失敗を恐れず挑戦せよ」というメッセージである。

### 3 『子どもと学校』(河合隼雄)

#### (1) 日本文化のなかの教師と生徒の関係

「対話的学び」の石井順治先生の授業について、文化論を交えながら書かれている。教師も常に新しい発見をし、進歩し続けていくと、その姿勢を生徒たちも感じる。

#### (2) 不登校の「処方箋」

不登校を直すのに、画一的な方法はない。長い目・温かい目に対応する。教師などにとって一番大切なことは、少しの遅れなど大丈夫という気持ちと、いつかはよくなる、という希望を失わないことである。

### (3) 編集手帳「成人」

大人の条件は、「葛藤保持力」悩む力である。各校長は課題等に大いに悩むと、その後いいことがきっとある。

#### 4 学習評価研修会（早稲田大学 田中博之教授）

オンラインでの「学習評価研修会」の開催を予定している。

#### 5 教室と学校の未来へ（佐藤学）

一人一人が学びの主人公である。聴き合い・学び合いが大事。改めて対話的な学びについてお示しした。

#### 6 学校経営等

先生方を育てること。

#### 7 人事関係日程

#### 8 教職員の事故防止について

職員会議には必ず示していただきたい事項である。パワーハラスメントは校長の立場を利用して絶対にやってはいけない。私事に立ち入らない。大勢の教員を抱えているといろんな教員がいる。先生方にも声掛けしてほしい。

丹羽委員	わいせつ問題の話も出たが、先生方は本当に気を付けなければならない。先ほどAIの話があった。溺れていた場合誰を救うか。仏様は誰を救うか。迷いなく身近な方を救う。我々も教育に携わるものとして、苦しんでいる者がいれば助けてあげる。温かい言葉をかけてあげようようにしたい。一番身近な声かけが大事であると思う。
小山委員	AIの話で、大きい方に傾く話がありましたが、AIは0からは作り出せない。0から作り出せるのは人間だけである。データだけに頼らない子どもを育てていかなければと思う。 あと、「不登校の処方箋」のお話があったが、ぜひ、ケアハウスの利用者や保護者へ見ていただきたい。子どもたちを長い目で見守っていかれたらと思う。
鈴木教育長	今年、不登校の保護者を含めた会議を予定している。保護者の心の負担が大きいと感じている。安心して親と子どもが生活できるように。
丹羽委員	本当に不登校の親は大変である。安心させるために、きちんと説明が必要。
一盃森委員	これまで取り組んできたことが、共通認識できる形になってきている。教育も科学の一つであり、根拠にして、授業づくり、学習評価が重要である。研究者の先生方と繋がることで充実していく。これからも期待をしている。 あと、対話的な学びについて、30年前の著書。びっくりしている。すでに、昔から実践しているので、すべての先生方が取り組んでいただきたい。

丹羽委員	学校教育は明治から？それ以前は、寺子屋だった。基本は家庭教育である。家庭教育の充実が必要。親は点数だけで評価せず、子が一番だと言わなければだめだと思う。
小山委員	コロナ禍で保護者も先生方に会う機会が減っている。感謝の気持ちがあってもなかなか伝わらない。先生に感謝の気持ちを伝えたい保護者がたくさんいる。
山家専門監	P T A総会の後の、学級懇談会があり、この場で会う機会があったが、コロナ禍でできなくなっている。保護者との連携が大事なので、学校側としても連携していきたい。
舟山委員	子どもが子どもに育てられる。昔とは違う。コロナ禍で子ども同士の関りも減っている。子どもの喧嘩など、親がすぐ止めないで、見守るのも必要。子ども同士で解決する力がある。

## (2) 課長報告

### 教育総務課長

行事予定について

### 生涯学習課課長

行事予定について

### 学校教育専門監

教職員の勤務時間外の勤務状況について

各学校の読書量について

舟山委員 | 金ヶ瀬の貸し出し増加が多い。臨時休業時に貸し出したのか。そのような指導があったのか。

山家専門監 | 例えば、学校で強化週間などを設けている。あとは、学校司書さんの工夫。声がけなどを実施している。

## 10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和4年5月20日（金）午後2時から開催する。

## 11 閉会宣言 午後3時50分

令和4年5月20日

署名委員

署名委員